

工学研究科

	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
			学内	学外	学内	学外		学内	学外
学生の確保 (人)	1年次	-	-	-	-	-	-	-	-
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
3年次 編入学		-	-	-	-	-	-	-	-
		(-)	(10)	(17)	(10)	(16)	(25)	(10)	(15)
学位授与数 (人)	博士課程修了				論文博士		博士課程修士		
	修了年次定員		修了者数		授与数		授与数		
	78 (78)		40 (50)		3 (3)		- (-)		
学生の研究活動 (件)	論文・著書発表数			学会発表数			受賞・表彰等		
	87 (210)			142 (349)			3 (9)		
学生の進路 (人)		教員	企業	公務員	研究員 (学術振興会)	その他			
	修了者	2 (7)	7 (16)	25 (16)	3 (3)	3 (8)			
	退学者	- (2)	9 (12)	2 (-)	- (-)	3 (5)			

・「学位授与数」の欄の「博士課程修士」は、中間評価の合格者数を示す。

・()は前年度の数値を、 は外国人留学生を内数で示す。

1 工学研究科の活動

30年続いた本研究科も、あと1年を残して正規の学生がすべて修了することになった。1名の修士修了予定者がいるが、あと1年で修了する予定である。博士号授与数は、40名で、減少傾向にあるが、飛び級で修了した学生や、受賞した学生など大いに活躍した部分もめだった。ただ、休学者が13名おり、研究科を閉じるのに慎重さが要求される。残りの学生を1人でも多く、正規年限内に修了させることが最重要課題である。正規年限内に修了できない学生に対して転研究科を含めて適切な処置をとることが必要である。

2 教員の教育業績評価の状況

当研究科は、特に教員の教育業績評価を行っていないが、飛び級や受賞など学生の名誉を通じて間接的に指導教官の誉れが得られる。学生の学会発表や、論文公表によって、学生の所属する研究室の活力が向上して指導教官の技量が評価される。

3 自己評価と課題

外国での研究を託された学生や、連携で大きなパワーになっている学生など、当研究科の学生の活躍の度合いは依然として大きいものがある。一方で、休学が13名おり、修了予定の立たない学生が相当数いるのが問題である。指導教官の努力でそれらの学生が無事修了できるように指導することが大切である。これから、一人一人の学生の実情を調べ、いかにしてスムーズに研究科を閉じることができるか、という課題にとり組む必要がある。各教官の積極的な努力に期待したい。